

狛江水辺の楽校が開校25周年を迎えました!

2001年(平成13年)4月、多摩川流域の第1号として開校した「狛江水辺の楽校」は、2026年4月に**25周年**を迎えました。

狛江水辺の楽校は、湧き水や小川、池、雑木林、オギ原、化石島など、多様な種類の自然と景観を残す、狛江市民の共有財産ともいえる貴重な水辺空間です。狛江市では、こうした自然環境を維持・保全して、子どもたちの教育の場として活用できるように、学校や市民と協働で「狛江水辺の楽校運営委員会」を設け、多摩川の管理・運用に取り組んでいます。

狛江水辺の楽校には、これまでに延べ**75,084人**(2025年4月時点)の子どもたちが訪れ、多摩川を体験してきました。

狛江水辺の楽校の三本柱

自然体験事業

保育園・小学校などからの依頼を受け、木のぼり・水辺の安全教室・ガサガサ*体験など、さまざまな自然体験事業を行っています。

※ 川ふちの草陰などを“がさがさ”と足で揺さぶり、隠れている魚がでてきたところを網で捕まえること。

環境学習事業

自然豊かな水辺の楽校では、市民ボランティアの指導の下、植物や野鳥、昆虫、魚類、化石、水質などテーマにそった環境学習を行うことができます。

環境保全事業

毎週日曜日、午前10時から正午まで環境清掃を行っています。観察路をつくったり、丸太橋をつくり直したりしているほか、昆虫や魚の産卵床をつくるなど、自然の再生活動にも取り組んでいます。



狛江水辺の楽校副校長 インタビュー



副校長 竹本さん



狛江水辺の楽校の
詳細はこちら

- Q これまで水辺の楽校での活動を続けてこれた理由や、活動を続けるうえでの原動力は何ですか?
- A 狛江水辺の楽校には、止水域と流水域の両方があるという貴重な環境があります。この貴重な場所を市民の皆さんの憩いの場や学びの場としてこれからも残していきたいという思いがあります。
- Q 活動を継続していくうえで大変なことはありましたか?
- A 2007年の台風で狛江水辺の楽校が大きな被害を受け、荒れてしまったことです。しかし、市民の方々が一丸となり、1~2年をかけて復活させました。これが狛江市の力であり、魅力です!
- Q 水辺の楽校が目指す、5~10年後のビジョンを教えてください。
- A 若い世代へ世代交代をし、活動を続けていくことです。継続は力なり!